



Title	図書館スタッフによる学修支援の実践、および事後評価：「プレゼン入門：話す基本技術」
Author(s)	久保山, 健; 堀, 一成; 坂尻, 彰宏
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/36154
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

図書館スタッフによる学修支援の実践、 および事後評価

～「プレゼン入門：話す基本技術」～



OSAKA UNIVERSITY
Live Locally, Grow Globally

久保山 健* (大阪大学 附属図書館)

堀 一成・坂尻 彰宏** (大阪大学 全学教育推進機構)

<June 1, 2014>

大学教育学会 第36回大会. 自由研究発表

会場: 名古屋大学

* kuboyama[at]library.osaka-u.ac.jp

**坂尻：非会員

事後公開版

発表概要

(1) 「プレゼン入門」の内容など

- ・人前で、論理的に分かりやすく話す学修機会
- ・高い有用度評価

(2) 事後アンケート

- ・事後に役立ったのか、受講者が何を身に付けたのか評価。



(1) 「プレゼン入門」 実施の概要

OSAKA UNIVERSITY
The Study, The Library

- 位置付け、目的、特長など
 - 授業外の学修支援企画
 - 2011年度～
 - 目的
 - ・本学の学修支援の充実
 - ・人前で論理的に分かりやすく話す学習機会の提供
 - ◆図書館スタッフによる企画、講師
 - ◆教員・職員の協働（一部資料の共用、当日補助）
3



(1) 「プレゼン入門」 内容

OSAKA UNIVERSITY
The Study, The Library

- 内容
 - 基本編（1回目）
 - ・パラグラフやスピーチの基本構成
 - ・1分間スピーチで実践
 - 基本編（2回目）
 - ・導入や結び、つなぎの言葉
 - ・声やアイコンタクトなど
 - ・1分間スピーチで実践
 - （時にはビデオ撮影）

「型」を意識
してもらう

4

5. スピーチ／プレゼンの構成例

◆ 典型例 (1つのパラグラフの場合)

トピックセンテンス

大阪大学の豊中総合図書館は学生の自主学習支援機能の充実した図書館です。

この図書館は蔵書数〇〇万冊と日本一の蔵書数の蔵書数を誇ります。学論拠(本文)(Body)書を自由に見ることができます。利用者の自主学習を支援するための、職員や担当TAの開催するミニ講習会にも行われています。

以上のことから、総合図書館は学生の自主学習を支援する図書館だと言えます。

結び、再主張(Conclusion)

(「2011年 論文の書き方＆文献の読み方 プチ・ゼミナール、パラグラフを読んでみよう その1」から 堀 一成 準教授作成の例文を口語用に一部改編追加) 5

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

**(1) 「プレゼン入門」
内容**

OSAKA UNIVERSITY
The University City of Osaka

■ 内容

○ 発展編 (1回目)

- ・ 司会の解説
- ・ 1分間スピーチ + 司会、ビデオ撮影

○ 発展編 (2回目)

- ・ ブレインストーミングの解説、練習
- ・ 1分間スピーチ + 司会、ビデオ撮影

6



OSAKA UNIVERSITY
Osaka City, Osaka, Japan

(1) 「プレゼン入門」 実施記録

時期	回数	実人数 (のべ)	有用度 評価 (*)	
① 2012.2-3	基本編2回 × 4グループ	31 (58)	4.50	
② 2012.9	基本編2回 × 2 + 発展編1回 × 1	15 (33)	4.56	発展編追加
③ 2013.2-3	基本編2回 × 6 + 発展編1回 × 2	40 (80) <small>オール5: 6コマ</small>	4.64	複数地区で開催
④ 2013.5	基本編2回 × 1 + 発展編2回 × 1	17 (35) <small>オール5: 最終回</small>	4.68	授業期に開催、 発展編2回化
⑤ 2013.9	基本編2回 × 2 + 発展編2回 × 1	15 (48) <small>オール5: 3コマ</small>	4.79	
⑥ 2014.2-3	基本編2回 × 6 + 発展編2回 × 2	43 (120)	4.62 <small>オール5: 3コマ</small>	複数地区で開催 ※事後評価の対象 外

(*) 5(非常に有益)～3(普通)～1(役に立たない)

7



OSAKA UNIVERSITY
Osaka City, Osaka, Japan

(1) 「プレゼン入門」 内容

- 配慮した点
 - 解説と実習を交互に行う構成
 - 実習を相対的に長くする
 - 受講者同士の相互評価
 - 考慮すべき点を徐々に増やす
難易度も段階的に上げる
 - 各回のアンケートによる改善

8



(1) 「プレゼン入門」 内容

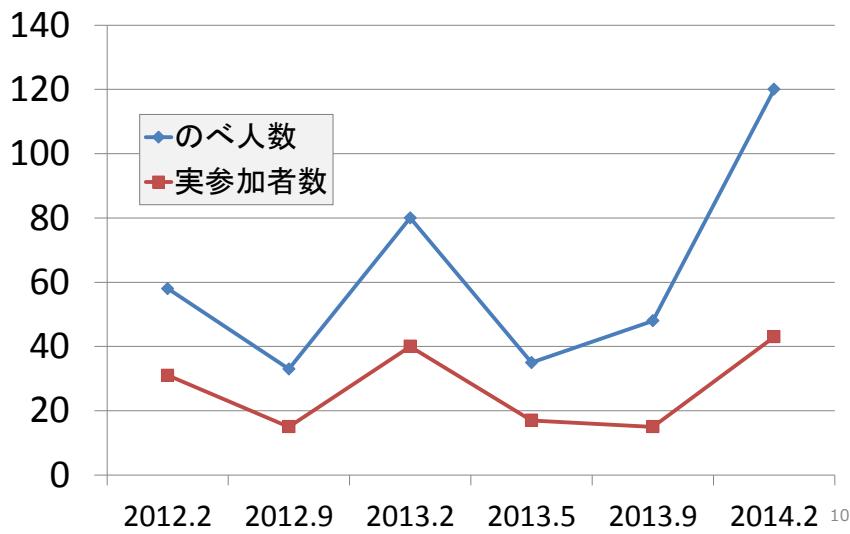
OSAKA UNIVERSITY
Osaka University

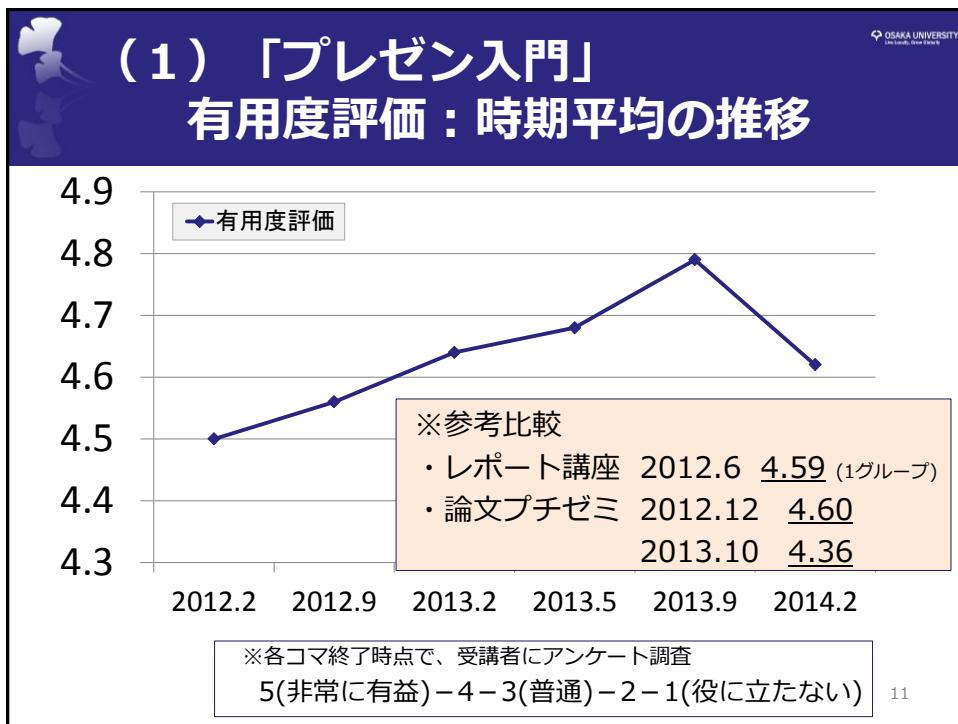
- 内容の元となったもの
 - 第1発表者(久保山)の英語スピーチの学習
 - ・ アジア図書館(大阪市東淀川区)、松中みどり氏の英語クラス (*参考資料(1)(2))
 - 第2発表者(堀)が「論文プチゼミ」で使用したパラグラフの説明資料
 - 司会編は、第1発表者(久保山)の経験

9

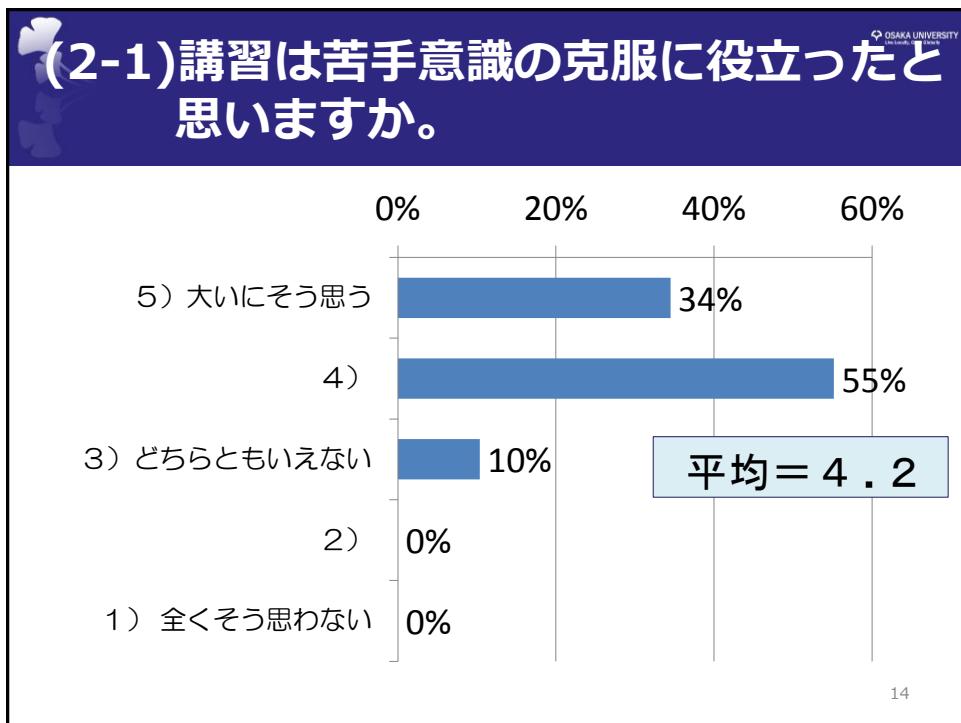
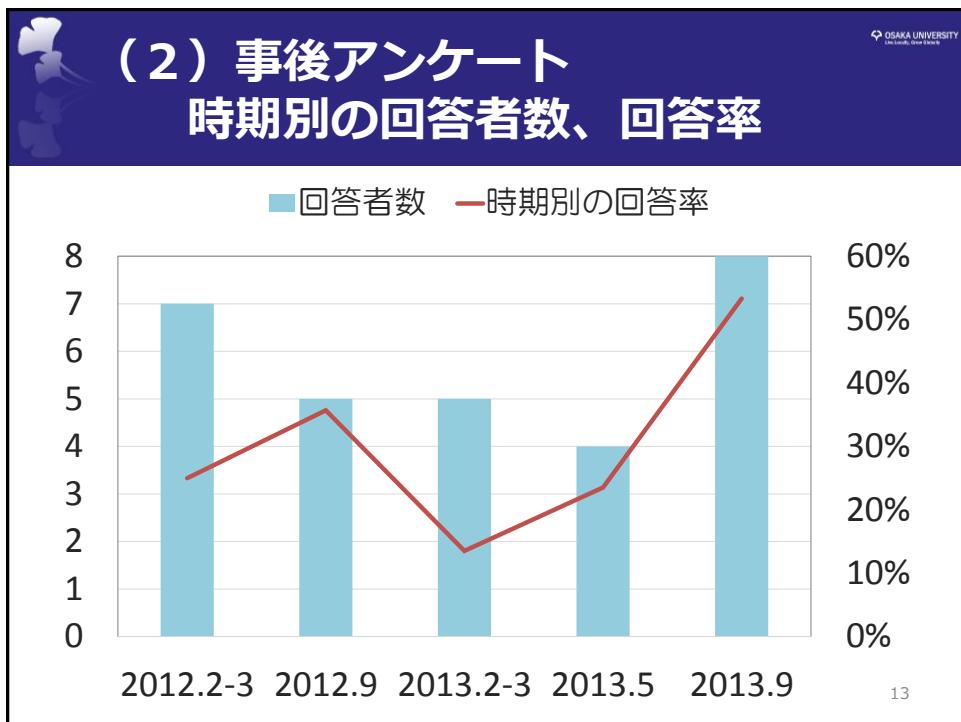


(1) 「プレゼン入門」 実参加者数、のべ人数の推移

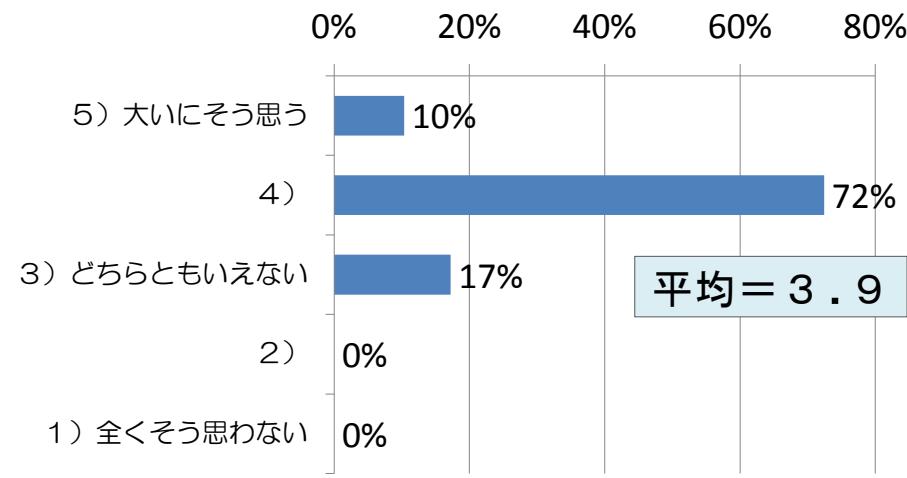
OSAKA UNIVERSITY
Osaka University



- (2) 事後アンケート
実施目的、方法など**
- 目的
 - ・事後に役立ったのか
 - ・何が身に付けられたのか
 - ・講習項目ごとの有用度
 - 期間 2014.1.10～1.24 ; 2.25～3.12
 - 2013.9までの受講者に、メールで依頼
 - 111名中(不達メール除外)、回答：29名 (26%)
 - Web上のアンケートフォームに入力
- ※事後アンケートの質問内容は、参考資料(4), (5)を参考に作成。
- 12

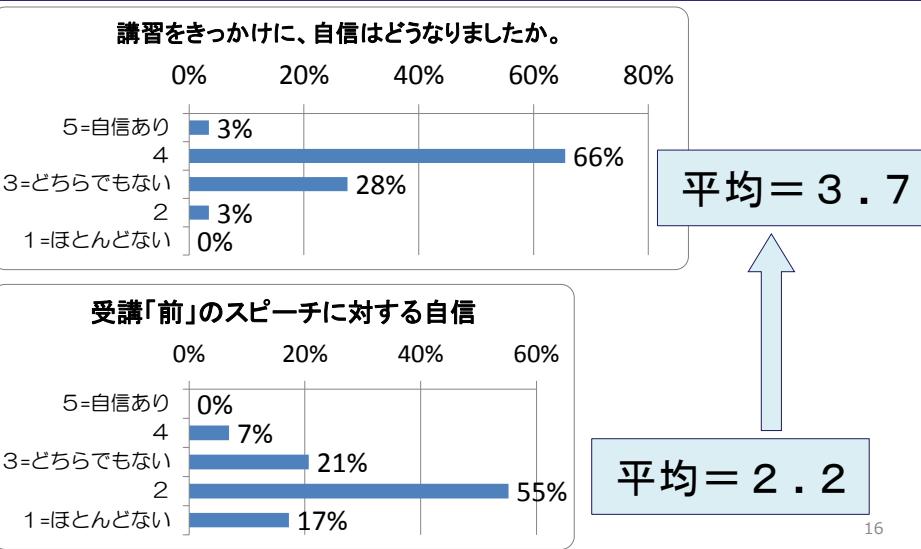


(2-2) 講習をきっかけにスピーチが上達したと思いますか。



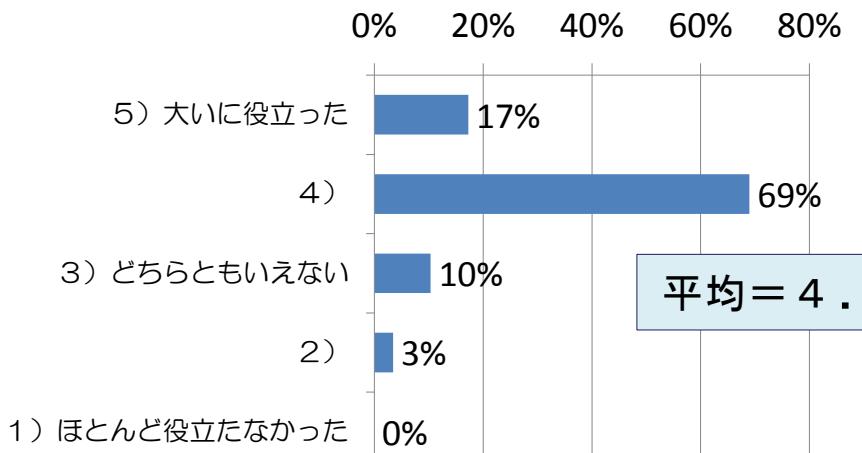
15

(2-3) スピーチに対する自信の変化



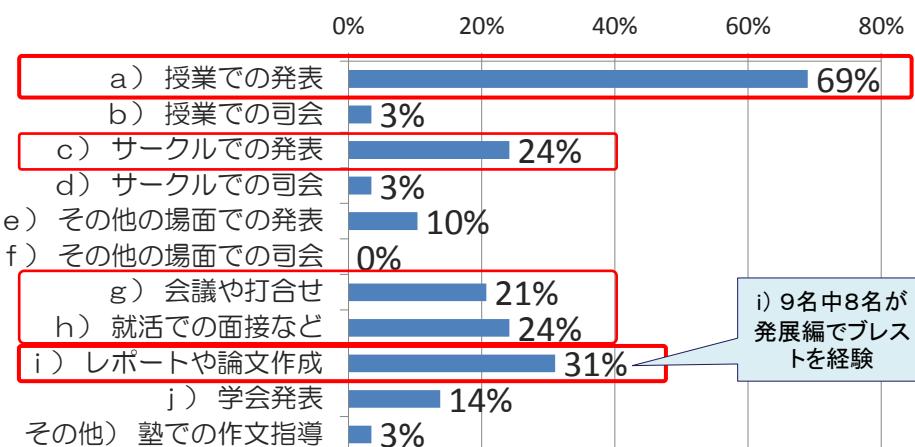
16

(2-4) 実際に話す場面で、この講習はどの程度役に立ちましたか。



17

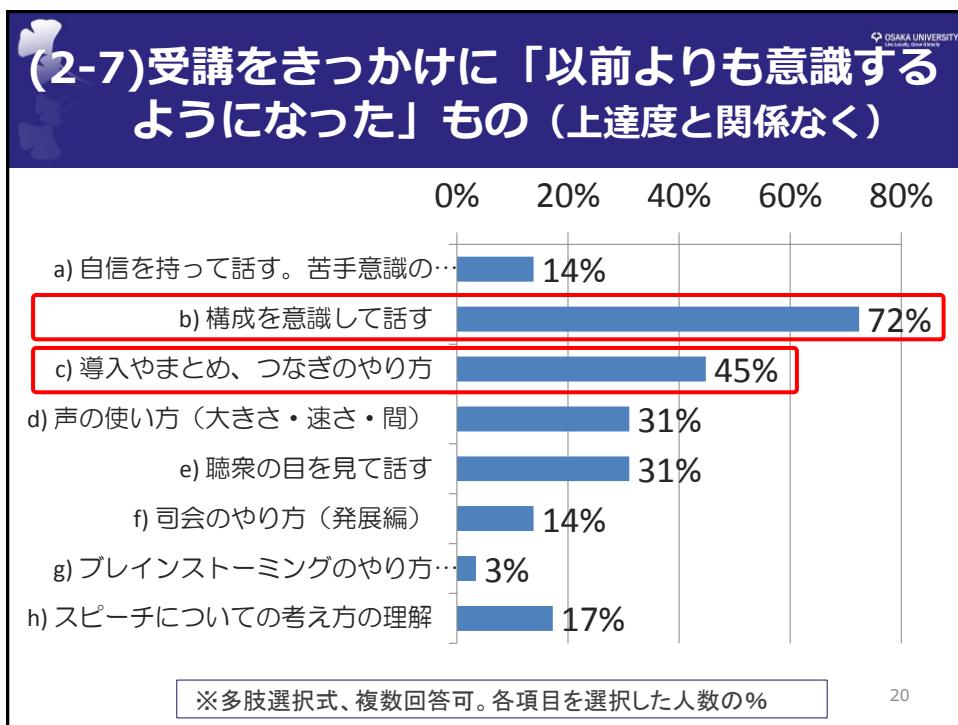
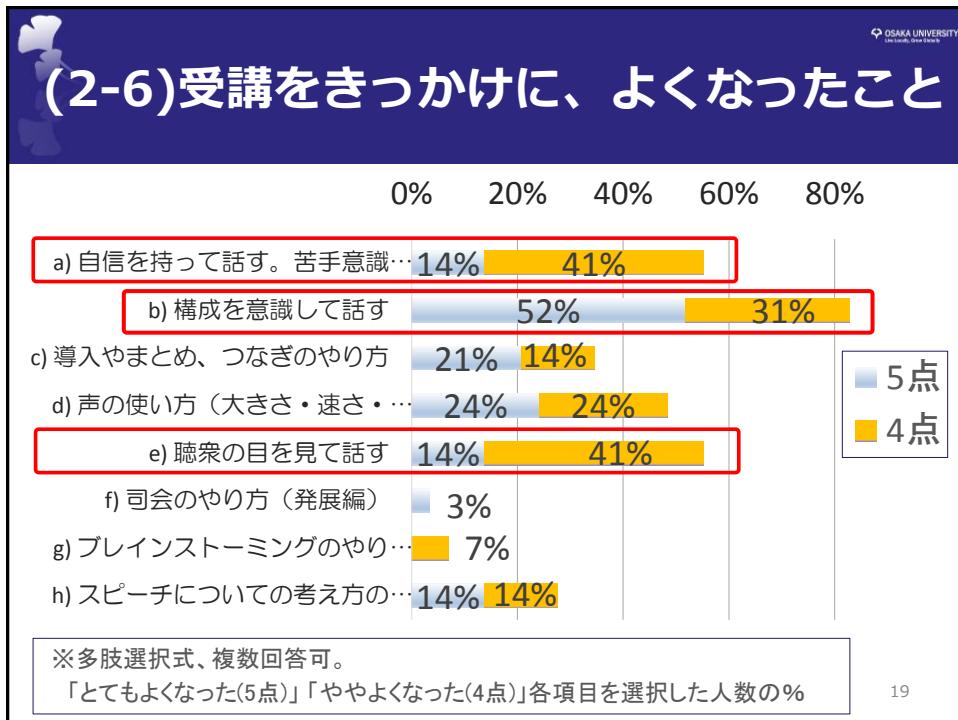
(2-5) どのような場面で役に立ったか

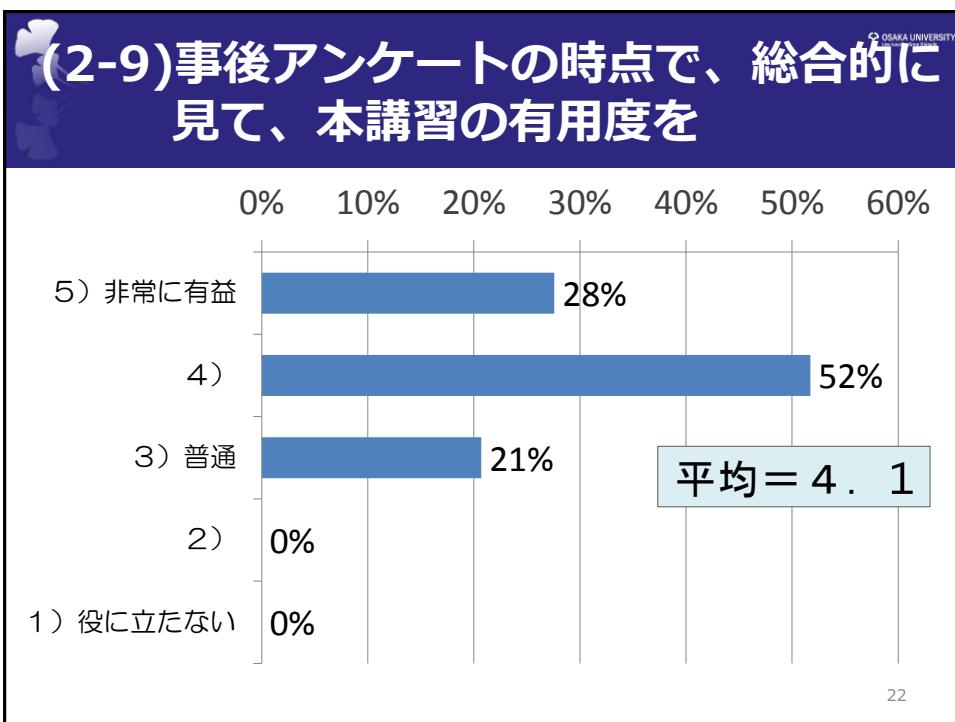
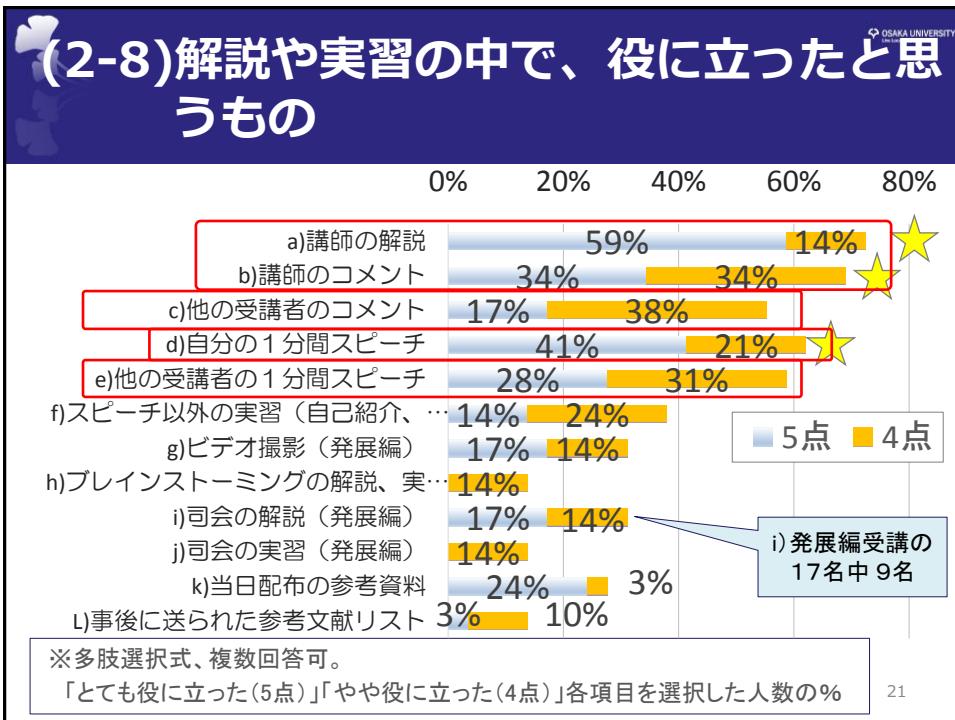


※多肢選択式、複数回答可。

回答者29名、各項目を選択した人数の%（選択件数の合計は59）

18







(3) まとめ

(1) 「プレゼン入門」の内容など

- ・人前で、論理的に分かりやすく話す学修機会
- ・高い有用度評価

(2) 事後アンケート

- ・役立ち度、上達の自己評価、"構成"の意識、
事後の有用度評価 → 短期の講習としては○
- ・導入/まとめ/つなぎ、司会、ブレスト

→ △

23



(4) 課題

(1) 授業、教育学習支援センター（2013年
6月発足）との連携

(2) 内容、実施体制

(3) 継続!?（第1発表者・久保山の異動）

24



OSAKA UNIVERSITY
Osaka University Library

(参考資料)

- (1) 松中みどり氏の英語クラス (アジア図書館. 大阪市東淀川区)
- (2) 松中みどり. 伝わる技術ってどういうこと?. 大岡研京都ワンドイセミナー. 2011.7.
<http://www.daitoken.com/kyoto/event/20110730.htm>
- (3) 久保山健. 図書館スタッフによる学習支援の実践 : 「プレゼン入門 話す基本技術」. 大阪大学高等教育研究. Vol.1. 2013.
p.77-83. <http://hdl.handle.net/11094/24850>
- (4) 藤木 美奈子, 前川 志津, 勝又 恵理子. スピーチに対する自信は何によってもたらされるか : 授業内容との関係から(II. 基盤教育院における実践). Obirin today : 教育の現場から. 10. 2010.
p.49-64
- (5) 藤木 美奈子. 初年次教育におけるスピーチの実践授業を通して – その意義と成果. 大学教育学会第35回大会 発表要旨集録.
2013.6. p.132-133

25

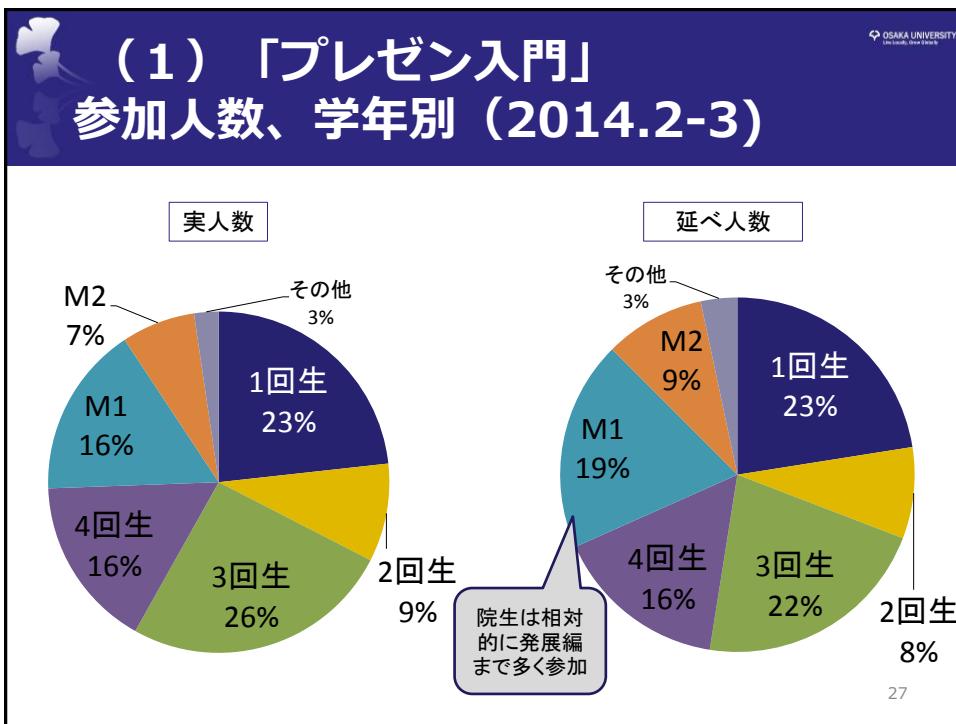


以降、久保山(大阪大学)補足資料

関連する学修支援企画

- (1)レポートの書き方講座
 - ・2010年度～
 - ・1年生を想定。全3回。
- (2)論文の書き方、文献の読み方プチゼミナール
 - ・2010年度～
 - ・3-4年生を想定。全4回。

26



(1) 「プレゼン入門」
各回のアンケートからのコメント

OSAKA UNIVERSITY
The University of Osaka City

- ポイントを学んだあととの実習はすごく楽しかった。 (医 M1)
- 型を意識するだけでも、話の筋が分かりやすくなることが分かった (文3)
- 司会は話を聞き、進め方を考え、意見の流れ、気を配ることが多くて大変だと気がついた (基4、国共1)
- ブレストの後、トピックセンテンスをすっきりさせることができ、ブレストの重要性を実感 (医 M1)

(*)記述は適宜省略、要約しているところもあり。2014.2-3実施分。 28



(2) 事後アンケート コメント (1)

OSAKA UNIVERSITY
Osaka University

- 講習内容だけでなく、学んだということが、不安を軽減するのに非常に役立った (2012.9, 外1)
- 普段相手に伝わらなかつたと感じたとき、文章構成について意識して話を変えただけで、ある程度相手が頷く回数が増えた (2013.9, 理M1)
- 企業説明会のグループディスカッションの発表で、事前に心づもりをしていなかったものの、それほど嫌だという気持ちにはならなかつた。苦手意識が薄れてきていると感じた (2013.5, 人3)

(*)記述は適宜省略、要約しているところもあり。

学部・学年は受講当時。

29



(2) 事後アンケート コメント (2)

OSAKA UNIVERSITY
Osaka University

- 就活面接のため受講したが、卒論の執筆や発表、ディスカッションなど多くの場面で役に立つた (2013.2, 人3)
- 集団面接の際の自己アピールで、他の参加者から、言いたいことがまとまるね、と言われ、講習が少しでも役に立つたのかなと思った (2013.2, 文3)
- 話し合いに参加する一人として、どうすれば議論が進むか、司会の人が進行しやすくなるかを考えて議論の場を見る・時には流れを戻すような発言を心がけるようになった (2013.2, 文4)

(*)記述は適宜省略、要約しているところもあり。

学部・学年は受講当時。

30



(3) まとめ

● 高い有用度評価の背景

- 参加者： 同じ課題意識、積極性の高さ
- 内容： 学習機会の少ない「型」の習得。
ポイントをパーツに分解し、提示。
解説と実習を交互に。
- 参加者同士の交流、触発。「楽しさ」に。